

06 エサの作り方

へら鮎釣りで使用する、麩エサ、グルテンエサ、インスタントウドンは、粉に水を加えて作ります。また、毎回同じ状態のエサを作るために、計量カップを使用することをおすすめします。ここでは、基本的なエサとその作り方を紹介しましょう。なお、加える水の量は製品によってことなりますから、パッケージの表記を参考にしてください。

バラケエサ「パウダーベイトスーパーセット」の作り方

セット釣りに専用のバラケエサ。まとまりやすく仕上がるので、エサ付けも簡単です。練り込んでもよくバラケるので、浅いタナからチョーチンのセット釣りにまで幅広く対応が可能です



①「パウダーベイトスーパーセット」を計量カップですり切り5カップ計り、エサボウルなどの容器に入れます



②次に水1カップを加えます



③水を加えたら全体的にムラがないように混ぜます。このとき、手を熊手状に開くと均一に混ぜ合わせることができます

グルテンエサ「グルテンα21」の作り方

グルテン繊維が綾織状になりハリのコロにしっかり残ります。エサの重さは軽く確実に持てるので、厳寒期の食い渋りに効果的です



①グルテンエサを作るときは、まず袋をよく振ってマッシュとグルテンが均等に混ざるようにします



②50ccの計量カップですり切り1カップ計ります。エサは袋の中で計るようにしましょう



③計ったエサを小さめのエサボウルなどの容器に入れます



⑦均等に水がゆきわたったらエサを寄せておきます



⑧3分ほど放置してできあがり



⑨グルテンエサは端からつまむように取り丸めます

セット釣りのくわせエサ「感嘆」の作り方

釣り場ですぐに作れ、オカユポンプで使えるわらびウドン感覚のくわせエサです。寒い時期のセット釣りのくわせエサとして効果的です



①最初に水を40cc正確に計り、フタ付き計量カップに入れておきます



②「感嘆」を正確に20cc計ります



③水の入っているカップに「感嘆」を加えます

用意するもの

- 「感嘆」
- 小さめの計量カップ2つ
- フタ付き計量カップ(小さな密閉容器でも可)
- おかゆポンプ

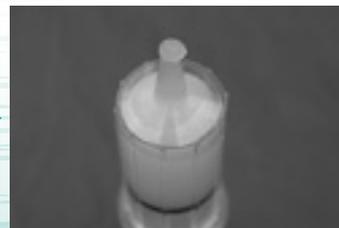
このエサは水の量が少し違って仕上がりが大きく変わってしまうので、計量は慎重に行いましょう



⑦適量をおかゆポンプに詰めます



⑧使用できる状態



⑨あずき粒大を押し出します



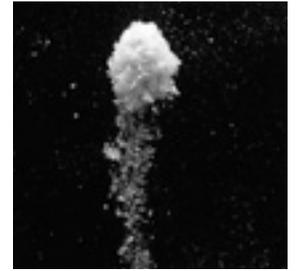
④ 基エサのできあがり。これがベースになり、エサが持たなければ練り、硬ければ柔らかくしていきます



⑤ 10円玉くらいを目安にして丸め、ハリを押し込みハリの子モトをギュッと加圧します。最初のうちは両手でいいいに付けましょう



⑥ エサをハリに付けた状態です



バラケエサは水中でじわじわ溶けてゆくのが理想的です



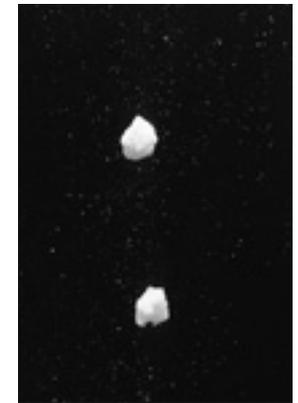
④ 水を正確に75cc計ります



⑤ 水を加えます



⑥ 水を加えたらすばやくムラがないようにかき混ぜます



グルテンエサはグルテン繊維がマッシュをつなぎ止め、バラケエサよりもゆっくり溶けて最後にふんわりしたグルテン繊維がハリのフトコロに残ります



⑩ グルテンエサは水中で膨らむので、必要以上に大ききは付けません



⑪ エサをハリに付けた状態です



④ すばやくフタをして、一気にシェイク!



⑤ 音がしなくなったらフタを開け、湿らせた指で全体をまとめます



⑥ くわせエサ「感嘆」のできあがり

※「感嘆」は水温によって、できあがりに多少のバラつきが出る場合があります。水量は下の表を参考してください

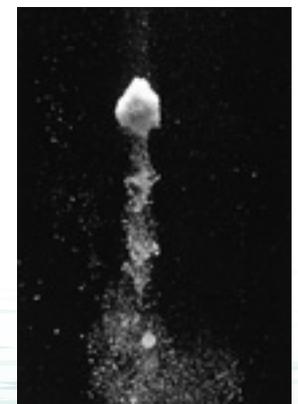
	エサ : 水	
標準	20cc	30cc
夏期	20cc	26cc
冬期	20cc	40cc



⑩ 押し出した「感嘆」を取りハリに付けます。指を湿らせておくとベタつきません



⑪ ハリはしっかり中央に刺し、ハリ先を出すとへら鮎の掛かりがよくなります



セット釣りのくわせエサはバラケの煙幕の中に入っています。バラケたエサを食べにきたへら鮎が、吸い込みやすいくわせエサと一緒に吸い込みます